

弘前大学学報

三月尽・岩木嶺 津軽の象徴でもある岩木山(標高1,625m)は津軽富士とも呼ばれ、その端正な姿は見事なまでに美しい。また、弘前市内の随所に「大きな岩木山」がある。住む人たちの生活のにおいがし、得難く、かけがえのない風景がそこにはある。四季折々、朝な夕なに仰ぎ見る我が「お山」はほかには比べべくもない。(弘前市の下町から西方に岩木山を望む。)

第614号
平成16年3月

弘前大学並びに文部科学省永年勤続者表彰 ～ 永年の功績を称える～

平成16年3月31日をもって退職される方々に対する弘前大学永年勤続者表彰式並びに文部科学省永年勤続者表彰状伝達式が、3月25日(木)に創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、部局長等の列席の下に執り行われました。

式典では、遠藤学長から永年にわたり職務に精励されたその功績を称えて、表彰状と記念品が贈られました。

また、受彰者を代表して医学部教授 大串靖子氏から、感慨を込めた謝辞が述べられました。今回、表彰を受けられた方々は次のとおりです。

弘前大学永年勤続者(37名)

総務部	丹藤 淳一						
人文学部	山谷 昼明						
教育学部	渡邊 一夫	早川 三野雄	志村 元	福士 貞夫			
	佐藤 武智夫	葛西 修	渋谷 澄江				
医学部	鈴木 唯司	松木 明知	大串 靖子	木村 紀美子			
	佐藤 征	小田桐 ミツエ	寺内 喜美子	鳴海 弘子			
	川村 継男						
理工学部	佐藤 孜	三上 重太郎					
農学生命科学部	卜藏 建治	安藤 喜一	河井 聖司	舩澤 陸郎			
	桑田 昼	奈良岡 耕子					
医学部 附属病院	大瀧 千代子	山口 敏子	坂岡 のり子	五十嵐 八ギ			
	岩谷 佳世子	坂本 イクヨ	成田 恵子	山形 紀美子			
	田中 くに子	小笠原 靖子	長内 節子				

文部科学省永年勤続者(1名)

人文学部 山谷 昼明

(敬称略)



式典風景



遠藤学長，三國事務局長を囲んでの記念撮影

弘前大学永年勤続者表彰

平成15年度弘前大学卒業式告示	弘前大学長 遠藤正彦 ...	2
平成15年度弘前大学大学院修了式告示	弘前大学長 遠藤正彦 ...	4

学内ニュース

平成15年度弘前大学卒業式を挙	行	6
平成15年度弘前大学外国人留	学生卒業・修了懇談会開催	7
平成15年度外国人留学生研	修修了証書授与式挙	7
合同企業説明会を開催		8
講演会「法人化の現状と課	題」を開催	8

学 事

学内紀要		9
外国出張		9

諸 会 議		9
-------	--	---

人 事

新任教授紹介		11
人事異動		12

主 要 日 誌		12
---------	--	----

行 事 予 定		13
---------	--	----

諸 報

訃報		14
----	--	----

平成15年度弘前大学卒業式

告 辞

弘前大学長 遠藤 正彦



真冬には雪を冠って峻厳な姿の岩木山も、今日は角がとれて穏やかな姿に変わりました。津軽に遅い春の到来です。そして、この春到来の今日、平成15年度の卒業式場に弘前大学を勇躍卒業する皆さんを迎えることは、本学の教職員にとって無上の喜びであります。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの華やいた表情から、皆さんの喜びが伝わってきます。また、皆さんを陰ながら支えてこられたご家族やご関係の方々にも祝意を表します。また、皆さんをこの卒業式の日まで導いてこられた指導教官及び職員各位にも敬意を表します。

そして、私共教職員は、この卒業式を一つの特別な感慨をもって臨んでおります。言うまでもなく、あと9日をもって国立大学としての弘前大学は、昭和24年新制の弘前大学として創立以来55年の歴史を閉じ、この4月1日より設置形態を変えて、国立大学法人弘前大学となります。したがって、皆さんは国立の弘前大学の最後の卒業生となります。おそらく、皆さんは自分達が国立大学としての最後の卒業生であったことを、生涯折に触れて思い起こすことでしょう。

この国立大学最後の卒業生の皆さんに、これまでの弘前大学の歴史の一端に触れて、そしてこれからの国立大学法人化後の弘前大学の進む方向について述べたいと思います。これにより、これから社会に出て活躍する皆さんの母校・弘前大学に対するよりどころの一つにしていただきたいと思います。このため、創設期の本学に深く関わったある人物をご紹介します。その方は、ブランド・青森りんごの形成に深く関わった方で、また本学の農学生命科学部の前身である農学部の創設に力を注いだ「島善鄰」先生です。島善鄰先生の「島」は海に浮かぶ島の「島」、善鄰の「善」は善悪の「善」、そして「鄰」は隣近所の隣の正字で、こざと偏をおおざと旁に書き換えた字です。

この島先生のお話をする前に、青森県のりんごのことについて触れておきます。明治初年に全国一斉にりんごの試作が始まりましたが、りんごが寒冷地に適す

ることから、明治の末期には早くも青森県は日本一の産地となっていました。ここに至るまでの間は、気象、肥料、枝の剪定等、様々な試行錯誤を繰り返しながら進んできたことは言うまでもありません。

しかし、この後、より一層苦難な時代を迎えました。特に、大正時代に入ってから津軽の地を襲った、りんごの葉が開花時期から早々と枯れてしまう、いわゆるモニリア病や褐斑病が蔓延し、りんご栽培は壊滅的狀態となりました。

この時、大正5年、西暦1916年、東北帝国大学農科大学と称されていた現在の北海道大学農学部から、この問題の解決のために派遣されてきたのが、大学卒業後、助手になって間もない島善鄰先生でした。当時、島先生は、今日卒業式を迎えた皆さんとそれほど年の変わらない弱冠26歳で、この難解な大問題のために単身、この津軽に派遣されてきたのです。

島先生は、明治22年、岩手県花巻市の生まれで、盛岡農学校、盛岡中学から仙台一中を経て、当時の東北帝国大学農科大学を卒業し、同大学の助手になり、その2年目に、りんご栽培が壊滅的狀態にあった青森県の青森県立農業試験場技師として赴任してきたのです。時に大正5年、それ以来昭和2年までの11年間、先生の年で26歳から37歳までの間、この津軽でりんごと苦闘したのでした。

当時の津軽地方は、前述したモニリア病や褐斑病のため、りんごの生産は激減し、夏ともなるとすっかり葉の落ちたりんごの木がリンゴ園に悄然と立っており、りんご栽培農家の生活は困窮を極めていたと記録されています。

島先生は、その荒涼とした津軽地方を一人で自転車をつぶさに見て回り、1年間の沈黙の後に、約10万字にも及ぶ「青森県苹果減収の原因及其救済策」と題する報告書を発表し、問題のモニリア病や褐斑病に対する対策の詳細を示しました。津軽のりんご栽培について初めて学問的解析が加えられ、対策がたてられたこととなります。

当時は青森県は一つといっても、南部と津軽の対立は尚残っており、南部出身の島先生の御苦労も相当であったと思われます。しかし、驚くことに、南部出身の弱冠27歳のこの青年の提言に、津軽の大部分のりんご栽培関係者が耳を傾け、ついには官民あげての「りんご栽培改善運動」が始まったのです。詳細は省きますが、以来、津軽の死活をかけた血みどろの戦が続き、ついにはモニリア病等の克服に成功し、今日のりんご王国が誕生したのです。このりんご栽培法は、全国に知れ渡り、青森や長野のりんご栽培農家から、島先生は「りんごの父」と敬われるようになりました。この経緯は、黒石市にある青森県りんご試験場の記念館にも記されています。

島先生は11年間津軽で活躍した後、母校北海道大学

に戻り、園芸学の教授、そして農学部長を経て、昭和25年、北海道大学学長に就任しました。

その1年前の昭和24年、新制の弘前大学が創立され、旧制弘前高等学校が文理学部に、青森師範学校が教育学部に、青森医学専門学校と弘前医科大学が医学部に、それぞれ発展的に統合されました。その後、この文理学部の中に農学科増設の運動が起こり、文理学部内に農学科が設置され、当時、北海道大学農学部長だった島先生が、農学科の兼任教授となりました。昭和29年、島先生は北海道大学学長退官と同時に、弘前大学文理学部の専任教授として移り、農学部の設置に向けて奔走しました。

この時、津軽のりんご生産者は、出荷するりんご箱1個につき、1円ずつ証紙を貼って寄附を募り、数百万円を拠出しました。青森県その他の団体等も拠出し、約4,600万円の基金をつくり、この基金で農学部設置を後押しした他、全学の整備のためにも使われました。約4,600万円という金額は、今日の金額に換算しても大変な金額になります。

そして、農学部設置準備も本格化し、島先生は地元青森県のりんご栽培農家の期待に応えて、この農学部をりんごに特化した教育と研究を推進するための学部にするために、あえて「りんご学部」の名称で文部省と交渉しましたが、残念ながら認められませんでした。しかし、昭和30年、ついに農学部の設置が認められ、本学の第4番目の学部として発足しました。島先生は農学部完成の後、昭和33年に弘前大学を退官され、北海道に戻られました。「りんごの父」と敬われた島先生は、昭和39年、札幌で御逝去されました。

私は学生時代の昭和32・33年に、弘前大学農学部教授としての島先生から、ある会合でお話を伺ったことがあります。大変におだやかながら歯切れの良い話し方でしたが、圧倒されそうな芯の強さを感じたという印象を持っております。

島先生は生涯に亘って、りんごに関する多数の研究論文や著書を表し、りんごに関する多数の研究者を育て、また、りんご関係技術者を育てられました。そして、何よりも青森県にりんご栽培を定着させ、りんご王国を築かれ、そして弘前大学に農学部を興したことは誠に大きな業績です。

本学におけるりんごの研究は、その後、農学部そして農学生命科学部に留まらず全学的に展開され、世界的研究や地元で役立つ様々な成果をあげてきました。そのごく一部を紹介すると以下ようになります。

農学生命科学部は、藤崎町に藤崎農場を持ち、そこで多数のりんご試験栽培を行っています。この農場で、りんごの新品種“弘大一号”が生まれ、また塩崎雄之輔教授により、新品種“こうこう”が生み出されました。菊池卓郎名誉教授は、りんごの樹形と剪定技術を集大成しました。原田幸雄教授は、島善鄰先生のモニリア病研究を発展させ、モニリア病菌研究の集大成をしました。宮入一夫教授らはりんごに寄生するウィルスから世界で初めての酵素、エンド・ポリガラクチュロナーゼを発見し、また奥野智旦教授らはリンゴ斑点落葉病菌の宿主特異的毒素を発見し、その構造を解析しました。そして、時間の都合で省略しますが、その他多くの教官によって、肥料、土壌、剪定、貯蔵等に関して新しい発見や技術の開発が行われました。また、りんごの国内や国際的流通や販売に関して農学

生命科学部の神田健策教授や人文学部の黄孝春助教授の業績もあります。

医学部からは、佐々木直亮名誉教授のりんごによる高血圧・脳卒中の予防効果の立証、吉田豊名誉教授らのりんごファイバーによる大腸癌発生防止効果の解明、武部和夫名誉教授らによるりんごファイバーによる動脈硬化防止効果の解明等がありました。また、産業廃棄物としてのりんごのしぼり粕は、農学生命科学部の豊川好司教授や村山成治助教授らにより、これを牛の飼料とすることによって、「アップルビーフ」と名付けられた大変おいしい牛肉の生産となりました。さらに、理工学部 森聰明教授のグループにより、りんごしぼり粕から新エネルギーを創生する研究を生み、また教育学部 加藤陽治教授のりんごの機能性成分の分析等々、枚挙にいとまがなく、りんごは弘前大学全学部にまたがる共通の研究テーマとなりました。

私は、現在の本学のこのりんご研究の発展をみますと、島先生が農学部ならぬ「りんご学部」にしようと思われた意図がここにあったと思われれます。これらの本学のりんごに関わる研究業績は、正に産学官連携・地域連携そのものであり、地元密着した大学の姿であります。

弘前大学は9日後、国立大学法人化されます。国立大学法人化後の地方大学としての本学は、大学本来の姿である人材養成としての教育と、学問発展としての研究の他に、地元密着し地元で支持される地域貢献が必要で、法人化後の弘前大学の理念が、教育及び研究と共に、地域貢献を明確に謳っているのはそのためです。

このたび卒業される皆さんには、日常的に見てきたりんごが、本学にとって如何に重要な意味をもっていたかが理解されたと思います。

国立大学法人化される弘前大学は、北東北に位置する地方大学として、その前途は極めて多難であります。りんご1箱1円ずつ拠出した地元の方々の思いは、今も変わらないものと思います。そのためにも、私たちは全学をあげて地元の期待に応え、地元で貢献する大学として、新しい展開を始めなければなりません。これには卒業生の皆さんのひとりひとりのサポートも必要です。同窓会や後援会を通じ、また課外活動・クラブ活動の先輩として、ぜひこれからの国立大学法人化された弘前大学に母校愛をもって、サポートされるよう強く希望します。

最後に、本学で学び身につけた奥の深い教養と専門的知識、そして課外活動で身につけた優れた体力と人格を十分に発揮し、社会で大いに活躍されるよう祈念して、お祝いの言葉とします。

平成16年3月23日



平成15年度弘前大学大学院修了式

告 辞

弘前大学長 遠 藤 正 彦



本日、弘前大学大学院を修了し、修士または博士の学位記を授与されました諸君に、心からお祝いを申し上げます。そして、諸君の大学院での勉学を今日まで支えてこられた諸君の御両親及び御家族の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

本学が諸君に修士及び博士の学位記を授与ということは、高等教育機関としての本学が、社会に対して諸君の専門性のレベルと質を保障することであり、また、本学の教育研究のレベルを内外に示すこととなります。したがって、諸君の指導に当たられた指導教官は、相当心血を注いだものと思います。その指導に当たられた指導教官に対して、心からの敬意を表します。諸君は、今日、晴れて修士になり、博士になりました諸君は、今、本学が保障した専門性をもって、社会で大いに活躍してほしいと願います。諸君、おめでとう。

ところで諸君は一様に承知している通り、本学は9日後の平成16年4月1日、その設置形態を変えて、国立大学法人弘前大学となります。したがって、実は、諸君は国立の弘前大学として最後の大学院修了生ということになります。国立大学法人化後の弘前大学は、自主性・自律性を高め、地元にかかれた大学として、より一層発展することを目標としていますので、諸君は母校に対する誇りをもって活躍すると共に、母校愛をもって、母校に対しても限らない支援することを念願致します。

これから社会に出て活躍する諸君は、一部の大学院博士課程に進学する方を除いて、諸君はいずれにして

も、これから間違いなく組織・集団のリーダーとなって活躍することになります。そのリーダーとしての心構えの一端について触れ、諸君のこれからの参考にさせていただきたいと思います。

このために、本学のエネルギー研究の実状を述べ、また社会のリーダーとしての諸君が、事あるごとに自らアイデアを出すということの大切さ、そして、そのアイデアを誰よりも早く具体化するということの重要性について述べたいと思います。

まず諸君は、文京キャンパスの人文学部と理工学部間の市道の、理工学部正門の場所に、昨年からの一つの工事が行われていたことに気付いていたことでしょうか。あれは、理工学部 南條宏肇教授を代表とする理工学部、農学生命科学部、教育学部の教官らのアイデアの具体化による、地熱を利用した融雪システムです。それ自体、南條教授らのオリジナルであります。そのアイデアの卓抜さが高く評価され、平成15年度の弘前大学の重点研究の一つに指定されました。完成後は実用に供せられ、また様々な実験的観測データも得られることになっています。同時に国立大学法人化後の弘前大学の研究における一つのシンボルタワーとなります。

この研究及びその実用化の重要な点は、次のような理由によるものです。現在、人類は様々なエネルギー形態を生活活動のために利用しています。電気を起こすという立場から言えば、水力発電、火力発電、原子力発電が大部分を占めていますが、水力発電は水力発電用ダム建設が限界状態にあり、火力発電は化石エネルギーの将来的涸渇と地球温暖化のため発展は望めず、原子力発電も様々な理由からその設置は頭打ちとなっています。

そこで多くの研究者が、新しいエネルギー創出のために、様々なアイデアを出し競っています。既に太陽の熱と光、石炭・石油に代わる第3の埋蔵エネルギー、風力、波力、地下熱、水素等々、様々なエネルギー源の開発、利用、効率化等について、世界中で競争が行われています。そして、これはIT産業と同じように、特許を制するものが世界を制することになり、資源の少ない我が国にとりましては、喫緊の重要課題であります。

そのような意味で南條教授らのアイデアとその実用化は重要であり、他人より如何に早くアイデアを出し、そして如何に早く実現させるのか、いわゆる「アイデア勝負」が今我々に求められているところです。

「アイデア勝負」をもう少し本学のエネルギー研究に向けてみましょう。現在、世界的に海岸・海洋における波力による発電の研究が進んでいますが、先ほどの南條教授、理工学部の伊藤昭彦教授らは、津軽海峡の海流を発電エネルギーにしようとする奇抜なアイデアで研究に着手し、5年以内に実用化することを目標に、精力的に研究を進めています。

また、バイオマス、すなわち樹木の剪定により生じた木の枝やりんごの絞り粕等の生物系産業廃棄物の処理が、地球環境問題の視点から重要課題となっておりますが、このバイオマスからエネルギーを創出しようという研究の競争も激化を極めているところです。津軽地方は日本一のりんごの産地ですが、落ちりんごやりんごの絞り粕の処理に困っているところです。理工学部 森 聡明教授らは、りんご絞り粕から多量の燃料電池用水素を取り出す研究を進めています。

農学生命科学部の武田 潔教授らは、このバイオマスを発酵させてからメタンを取り出す研究を進めています。また、農学生命科学部の澤田信一教授らと青山正和教授らは、それぞれ独自に植物の光合成によるエネルギー産生機構を、人為的にコントロールすることにより、そのエネルギーを利用する方法について研究を進めております。

これらは本学のエネルギー産出の研究の一部を紹介したのですが、このエネルギーに関係している研究者が多いことは、正にアイデア勝負の世界であることを示しております。このことは、アイデア勝負が、如何に他人のやらないこと、そして、気付いていないことを、他人より如何に早く具体化するかにかかっていることであり、この勝敗は正に競争そのものであります。

このアイデア勝負は、何も理工学部の研究領域に限ったものではなく、経営プラン策定や財政、行政等あらゆる分野に共通のものであります。

今、弘前大学は国立大学法人化へ向けて、様々な準備を進めております。そこでは本学の管理運営システ

ムに対し、多くの教職員から様々なアイデアが寄せられ、それらを集大成し、新しい本学の機構・制度が策定されてきました。国立大学法人化の進め方として、全構成員から様々なアイデアを公募し、それを活用するというシステムは、本学が他大学に対して誇り得るシステムであります。

諸君におきましても、これから社会にでて活躍する中で、様々な場面でアイデアを出し、そのアイデアを具体化することにより、その問題の解決になると同時に、諸君の評価が高まることとなります。諸君が、「他人のやらないことを他人より早く」を合言葉に、自分の専門性を生かし本領を発揮されるようになることを願います。

終わりに臨み、本学で学び、身につけたものを十分に生かし、健康に配慮してこの実社会で活躍するよう願ひ、諸君へのはなむけとします。

平成16年 3月23日



平成15年度弘前大学卒業式を挙行

平成15年度卒業式は、3月23日(火)午前10時から弘前市民会館において、来賓、関係者出席の下、厳かに行われました。

始めに遠藤学長から学位記、卒業証書並びに修了証書が各学部及び医療技術短期大学のそれぞれの代表の学生に手渡されました。

引き続き学長告示、弘前大学学生歌の演奏が行われ、最後に「ほたるの光」を出席者全員で斉唱し、卒業式典を滞りなく終えました。

この日は天候にも恵まれ、卒業、修了生の門出を祝福しているようでした。

式典終了後は、記念写真に収まるグループや後輩達から胸上げの祝福を受けるグループなど、市民会館前は、いつもながらの光景が繰り広げられました。

また、大学院修了式は同日午後1時から創立50周年記念会館みちのくホールで、教育学部附属学校園の卒業式は、小学校が3月19日、中学校が3月12日、養護学校が3月17日、幼稚園が3月15日に各学校園においてそれぞれ執り行われました。

今年度の卒業者の内訳は、次のとおりです。

弘前大学

学士学位記

人文学部	315名
教育学部	248名
理学部・理工学部	286名
医学部	100名
農学部・農学生命科学部	183名
計	1,132名

弘前大学医療技術短期大学部

卒業証書

衛生技術学科	2名
理学療法学科	2名
計	4名
修了証書 専攻科助産学特別専攻	18名

医療技術短期大学部計 22名

弘前大学大学院

修士学位記

人文社会科学研究科	19名
教育学研究科	42名
理学研究科	3名
理工学研究科	76名
農学研究科	1名
農学生命科学研究科	50名

博士学位記

医学研究科	42名
大学院 計	230名

附属学校園

小学校	127名
中学校	197名
養護学校	16名
幼稚園	55名
計	395名



平成15年度弘前大学外国人留学生 卒業・修了懇談会開催

平成15年度弘前大学外国人留学生卒業・修了懇談会が、2月20日(金)、本学大学会館大集会室において、外国人留学生、外国人研究者、チューター及び本学関係教職員、学外関係者等約150名が出席して盛大に開催されました。

この懇談会は、本学に在籍中の外国人留学生、外国人研究者並びに関係教職員等が一堂に会し、今年度の卒業・修了留学生の門出を祝い、留学期間満了により本学を離れる留学生を送るとともに、参加者の相互理解を図り、留学、教育・研究情報等の交換により“弘前大学から広がる国際交流の輪”をグローバルなものとするために開催しているものです。

懇談会では、最初に遠藤学長から、出席者への謝辞とともに今年度限りで本学を離れる留学生への心暖まる饒の挨拶がありました。

続いて、各学部ごとに本学を去る留学生の紹介があった後、留学生代表から、日本語による本学での様々な思い出や関係者への感謝のスピーチがありました。また、長年にわたって献身的に留学生の支援活動を行っている弘前市日中友好協会・石岡健治会長及び弘前市桔梗野町会・中澤福治会長から、留学生に対する心こもった送別と激励の言葉があった後、送る側の留学生代表2名からこれからの前途を祝福するスピーチがあり、会場は終始和やかな雰囲気に包まれ、本学発信の国際交流の輪が大きく広がる有意義なひとときとなりました。



開会の挨拶をする遠藤学長



帰国の挨拶をする留学生

平成15年度外国人留学生 研修修了証書授与式挙行

本学で学ぶ外国人留学生の平成15年度研修修了証書授与式が、3月15日(月)、事務局大会議室において行われ、3月で本学における研修を修了した中国、韓国、タイ、ドイツ、ロシア、ウクライナ、ニュージーランド及びチリの世界8か国からの留学生27名に対し、修了証書が授与されました。

授与式には、留学生、関係学部長並びに指導教官等が出席し、遠藤学長から出席した7名の留学生一人一人に修了証書が手渡されました。引き続き、学長から、本学関係教職員への謝辞とともに、日本の伝統文化に触れ、多くの友人を得た留学生に対し、帰国後も日本や弘前の文化を伝えるとともに、弘前大学で学んだ専門知識を生かし、それぞれの国でリーダーとなり、日本との国際交流の架け橋として活躍願いたい旨の挨拶がありました。



遠藤学長から修了証書を授与される留学生



授与式出席の留学生

合同企業説明会を開催

本学では、2月13日(金)に合同企業説明会を開催しました。

この企画は、昨今の厳しい就職状況を受けて、昨年度理工学部が他学部在先駆けて本学で初めて実施したものです。学生と企業の出会いの場を提供することで、学生の就職意欲の高揚を図ることを目的としています。

今回は、各学部の就職対策協議会委員が協議の上、理工学部とともに人文学部、教育学部、農学生命学部の4学部で開催しました。

各学部とも昨年度理工学部で取り入れた、ブース形式を採用し、学生が興味のある企業を自由に選択できるものとなりました。

当日は、4学部合計で製造業、販売業、マスコミなど県内外の171社の企業が参加し、約450名の学生が説明を受けました。

なお、合同企業説明会終了後に開かれた懇親会では、当日参加した企業の採用担当者のうち約100名のほか、遠藤学長をはじめ、4学部の教職員約90名と併せて医学部保健学科教職員数名も参加し、活発に情報交換が行われ、盛会裏に終了しました。



熱心に説明を受ける学生



懇親会で挨拶する遠藤学長

講演会「法人化の現状と課題」を開催

2月18日(水)、事務局大会議室において、独立行政法人国立少年自然の家 松下俱子理事長による講演会「法人化の現状と課題」が開催されました。

当日は、学長、副学長及び事務局長をはじめ事務系職員約50名が参加し、全国の少年自然の家における状況、自己評価への取組や今後の課題等について熱心に聴講しました。

講演後の質疑応答においても、活発な意見交換が行われました。



講演する松下講師

学内紀要

理工学部の研究紀要が、次のとおり刊行されました。

理工学部

弘前大学理工学部研究報告第6巻第2号(平成16年2月12日発行)

(Bulletin of the Faculty of Science and Technology, Hirosaki University)

官職	氏名	渡航目的	目的国	期間
助手(病)	山下 建	熱傷・創傷治癒シンポジウム出席及び研究資料収集	アメリカ合衆国(ハワイ)	16. 2.22 16. 2.28
医員(病)	山内 誠	研究資料収集	アメリカ合衆国(ハワイ)	16. 2.22 16. 2.28
助教授(理工)	丹波澄雄	TRITON BUOYにて海洋観測データを収集するため	オーストラリア	16. 2.18 16. 3.23

外国出張

官職	氏名	渡航目的	目的国	期間
助教授(人)	羽瀧一代	「日本とジャマイカを対象とした西洋文化受容とその伝達システムの文化研究 芸術学・社会学を中心に」の調査・研究	ジャマイカ	16. 2.10 16. 2.17
助教授(人)	森 樹男	日系多国籍企業の海外現地法人の経営に関する調査	連合王国 ベルギー 王国	16. 2.22 16. 2.29
助教授(人)	松井 太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文書資料の調査研究	トルコ共和国 連合王国	16. 2.22 16. 3.15
助教授(教)	佐藤光輝	文部科学省在外研究員として英国におけるデジタルメディアを活用した美術科教育に関する研究をするため	連合王国	16. 3. 1 17. 2. 1
教授(教)	加藤陽治	海外の大学の調査研究・視察のため	中華人民 共和国	16. 3.15 16. 3.21
教授(教)	浅野 清	海外の大学の調査研究・視察のため	カナダ アメリカ 合衆国	16. 3.17 16. 3.27
教授(教)	大高明史	「中央カリマンタンにおける水界生態系の機能」に関する研究打ち合わせ及び現地調査	インドネシア 共和国	16. 3.18 16. 3.28
助教授(教)	戸塚 学	学術国際振興基金助成事業による共同研究のため	アメリカ 合衆国	16. 3.21 16. 3.30
教授(医)	宮越順二	BEMS(生体と電磁波国際学会)及びBoard Meeting(理事会)出席	アメリカ 合衆国	16. 2. 4 16. 2. 9
助手(病)	下山 克	韓国 日本合同ヘリコバクター学会での講演のため	大韓民国	16. 2.20 16. 2.22

諸会議

定例評議会

2月10日(火)

議題

- 1 調査委員会の設置について
- 2 法人化関連事項について
 - (1) 弘前大学管理運営規則(案)について
 - (2) 弘前大学学則(案)について
 - (3) 弘前大学大学院学則(案)について
 - (4) 弘前大学評価室設置規則(案)について
 - (5) 職員の過半数を代表する者の選出手続き等に関する要項(案)について
- 3 「停学」の取扱いに関する申合せ(案)について

報告事項

- 1 法人化関連事項について
 - (1) 弘前大学職員就業規則別定規程(案)について
 - 弘前大学職員任免規程(案)
 - 弘前大学教員の資格、任免及び懲戒に関する規程(案)
 - 弘前大学職員再任用規程(案)
 - 弘前大学職員出向及び転籍に関する規程(案)
 - 弘前大学職員の休職及び復職に関する規程(案)
 - 弘前大学職員給与規程(案)
 - 弘前大学役員倫理規程(案)
 - 弘前大学職員の育児休業等に関する規程(案)
 - 弘前大学職員の介護休業等に関する規程(案)
 - 弘前大学における懲戒処分基準(案)

- 弘前大学労働災害補償規程(案)
- 弘前大学職員退職手当規程(案)
- 弘前大学職員勤務評定実施規程(案)
- 弘前大学職員のハラスメントの防止等に関する規程(案)
- 弘前大学職員勤務時間, 休暇等に関する規程(案)
- 弘前大学教員の懲戒等の審査に関する規程(案)
- 弘前大学大学院修学休業規程(案)
- 弘前大学安全衛生管理規定(案)
- (2) 労使協定書(案)について
 - 賃金の一部控除に関する協定書(案)
 - 育児・介護休業適用除外に関する協定書(案)
 - 変形労働制に関する協定書(案)
 - 裁量労働制に関する協定書(案)
 - 時間外労働, 休日労働に関する協定書(案)
 - 一斉休憩の適用除外に関する協定書(案)
- 2 総合情報処理センター長等の選考について
- 3 教官人事報告
- 4 平成16年度大学入試センター試験の実施結果について
- 5 平成16年度入学者選抜個別学力検査入学者志願者数等について
- 6 委員会等報告
 - (1) 全学教育協議会
 - (2) 将来計画委員会・国立大学法人化委員会合同委員会
 - (3) 自己評価委員会
 - (4) 国際交流委員会
 - (5) 研究推進委員会
 - (6) 学生生活委員会
- 7 その他

臨時全学教育協議会

2月10日(火)

議 題

- 1 弘前大学学生担任制(仮称)について

全学教育協議会

2月24日(火)

議 題

- 1 弘前大学21世紀教育履修規則の一部改正について
- 2 弘前大学国際交流科目履修規則の一部改正

について

- 3 平成16年度「国際交流科目・英語による授業」開講に伴う学外非常勤講師の確保について
- 4 平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」について
- 5 その他

報告事項

- 1 21世紀教育センター運営委員会報告
- 2 学部教育委員会各専門委員会報告
 - (1) 専門教育専門委員会報告
- 3 その他

研究推進委員会

2月27日(金)

議 題

- 1 弘前大学知的財産ポリシー等について
- 2 弘前大学出版会設立案について
- 3 特許取得推進経費及び特許取得検討経費について
- 4 その他

報告事項

- 1 各WGからの報告
- 2 出版会設立準備会報告
- 3 その他

将来計画委員会・国立大学法人化委員会合同委員会

3月2日(火)

報告事項

- 1 組織業務検討委員会報告
- 2 人事制度検討委員会報告
- 3 財務会計制度検討委員会報告
- 4 国立大学協会臨時総会報告
- 5 中期目標・中期計画について
- 6 弘前大学職員就業規則別定規程(案)について
 - (1) 弘前大学職員兼業規程(案)
 - (2) 弘前大学職員永年勤続者表彰規程(案)
 - (3) 弘前大学大学院修学休業規程(案)
- 7 弘前大学会計規則(案)について
- 8 弘前大学会計規則別定規程(案)について
 - (1) 弘前大学における会計機関等の事務の範囲及び職位等に関する規程(案)
 - (2) 弘前大学勘定科目設定基準(案)
 - (3) 弘前大学予算管理規程(案)
 - (4) 弘前大学出納事務取扱規程(案)
 - (5) 弘前大学寄附金受入事務取扱規程(案)
 - (6) 弘前大学債権管理規程(案)

- (7) 弘前大学債権管理細則(案)
 - (8) 弘前大学固定資産管理事務取扱規程(案)
 - (9) 弘前大学不動産管理規程(案)
 - (10) 弘前大学物品管理規程(案)
 - (11) 弘前大学たな卸資産管理規程(案)
 - (12) 弘前大学契約事務取扱規程(案)
 - (13) 弘前大学政府調達事務取扱規程(案)
 - (14) 弘前大学旅費規程(案)
 - (15) 弘前大学受託研究取扱規程(案)
 - (16) 弘前大学共同研究取扱規程(案)
 - (17) 弘前大学科学研究費補助金経理事務取扱規程(案)
- 9 その他

入学試験委員会

2月12日(木)

議 題

- 1 平成16年度入学者選抜個別学力検査の実施について
- 2 平成16年度帰国子女特別選抜学生募集要項(秋季入学)(案)について
- 3 平成16年度私費外国人留学生募集要項(秋季入学)(案)について
- 4 平成18年度入学者選抜方法及び実施教科・科目等(案)について
- 5 その他

21世紀教育センター運営委員会

2月19日(木)

報告事項

- 1 センター長報告
- 2 専門委員会報告
 - (1) 教務専門委員会
 - (2) FD・広報専門委員会
 - (3) 点検・評価専門委員会
- 3 各種委員会報告
- 4 科目主任会報告
- 5 その他の報告

審議事項

- 1 平成15年度後期末試験追試験願について
- 2 平成16年度開講計画について
- 3 平成16年度における21世紀教育科目及び国際交流科目から共通教育科目への読み替え表について
- 4 平成16年度非常勤講師による授業計画の変更について
- 5 平成16年度北東北国立3大学単位互換(集中授業方式)による派遣科目について
- 6 平成16年度21世紀教育の運営等に係る経費について
- 7 平成16年度21世紀教育授業運営・担当評価について
- 8 その他

新任教授紹介

人文学部



さいとう よしひこ
齋藤 義彦
(専攻: 近代社会論)

齋藤人文学部助教授が、平成16年3月1日付けで、同学部教授に発令されました。

人事異動

[採用]

発令年月日	現官職(所属)	氏名	異動内容
16.3.1		鷺坂将伸	助手(理工)

[昇任]

発令年月日	現官職(所属)	氏名	異動内容
16.3.1	講師(医学)	菅世智子	助教授(生セ)
"	助教授(人文)	齋藤義彦	教授(人文)
"	講師(")	大橋忠宏	助教授(")

[転任]

発令年月日	現官職(所属)	氏名	異動内容
16.3.1	臨床検査技師(病院)	鈴木宏	臨床検査技師(東北大学)
"	"(東北大学)	舩甚満	"(病院)

[復職]

発令年月日	現官職(所属)	氏名	異動内容
16.2.12	看護師(病院)	須藤絵利子	育児休業より

[退職・辞職]

発令年月日	現官職(所属)	氏名	異動内容
16.2.12	看護師(病院)	田中綾恵	退職(16.2.11限り任期満了)
16.2.29	薬剤師(")	相内玲子	辞職
"	看護師(")	平原加奈子	"

主要日誌

- 2月6日 病院長予備選挙(医学部)
教科主任,科目主任,小論文主任会議
学長オフィスアワー
会計内部監査(事務局)
- 7日 クリニカル・クラークシップFD(医学科校舎)
- 8日 職員スキー教室・温泉保養(大鱈温泉スキー場,国民宿舎おおわに山荘)

- 9日 入学者選抜選考委員会
運営会議
部長会議・事務協議会法人化対策連絡調整会議との合同会議
- 10日 合格者発表(推薦入学,医学部医学科第1段階選抜)
生涯学習推進委員会
部局長等会議
評議会
臨時全学教育協議会
- 12日 法人化に伴う保健管理問題協議会(保健管

- 理センター)
 入学試験委員会
 21世紀教育教務専門委員会
 事務協議会
- 13日 弘前大学医学部学術賞等授賞式(講演発表)
 (MCC)
 合同企業説明会
 公式ホームページ専門委員会
 人事制度検討委員会
 学生相談研修会
 個別学力検査管理運営責任者会議
- 16日 平成16年度岩手大学大学院連合農学研究科
 入学者選抜試験等
 平成15年度国立大学医学部長、歯学部長及
 び病院長会議(国立オリンピック記念青少年
 総合センター)
 平成15年度国立大学医学部附属病院長会
 議臨時総会(国立オリンピック記念青少年総
 合センター)
 第3回大学懇談会(人事院東北事務局)
 21世紀教育FD・広報専門委員会
 大学院地域社会研究科入学試験
 大学院地域社会研究科長候補者選挙
 運営会議
 21世紀教育点検・評価専門委員会
 大学院地域社会研究科委員会
- 17日 第166回岩手大学大学院連合農学研究科代
 議委員会(岩手大学)
 第40回岩手大学大学院連合農学研究科委
 員会(岩手大学)
 特別選抜入学手続(～18日)
 発明委員会
- 18日 講演会「法人化の現状と課題」
- 19日 病院長選挙
 就業規則等に係る医学部・附属病院説明会
 学長オフィスアワー
 21世紀教育センター運営委員会
- 20日 岩手大学大学院連合農学研究科合格者発表
 第5回国際開発協力入門セミナー(仙台エ
 クセルホテル東急)
 合格者発表(大学院地域社会研究科)
 職員宿舍運営委員会
 組織業務検討委員会
 平成15年度外国人留学生卒業・修了懇談会
 21世紀教育FD研修会
- 23日 運営会議
 生涯学習教育研究センター運営委員会
- 24日 全学教育協議会
- 財務会計制度検討委員会
- 25日 臨時東北地区国立学校人事担当課長会議
 (東北大学)
 平成15年度青森県高等教育機関図書館協
 議会講演会(北里大学)
 平成16年度入学者選抜個別学力試験(前期
 日程)
- 26日 平成16年度入学者選抜個別学力試験(前期
 日程)
 学生表彰
- 27日 研究推進委員会
- 28日 第4回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研
 修教育ワークショップ(～29日 十和田湖ホ
 テルアズヴェール)
- 3月1日 国立大学等施設担当部課長連絡会議(東京
 大学)
 国立大学協会臨時総会(東京ガーデンパレ
 ス)
 社団法人国立大学協会(仮称)設立総会(東
 京ガーデンパレス)
 発明委員会
- 2日 将来計画委員会・国立大学法人化委員会合
 同委員会
 生涯学習講演会「平和を語る・社会教育を語
 る」(MCC)
- 4日 東北地区留学生課長等連絡協議会(～5日
 仙台市)
- 5日 平成15年度東北地区学生指導研究会役員
 会(東北大学)
 入学者選抜選考委員会
 学長オフィスアワー

主要行事予定

事務局

- 4月2日 国立大学法人弘前大学設置記念式典並びに
 旧制官立弘前高等学校外国人教師館移築記念
 式典(50周年記念会館みちのくホール,旧制
 官立弘前高等学校外国人教師館前)

教育学部

- 4月7日 平成16年度弘前大学教育学部附属小学校入
 学式
- 7日 平成16年度弘前大学教育学部附属養護学校
 入学式
- 7日 平成16年度弘前大学教育学部附属中学校入

学式

12日 平成16年度弘前大学教育学部附属幼稚園入園式

医学部

4月19日 全国医学部長病院長会議「東北・北海道」ブロック会議（山形大学）

農学生命科学部

4月7日 平成16年度岩手大学大学院連合農学研究科入学式（岩手県民会館）

7日 第167回岩手大学大学院連合農学研究科代議員会（SCS）

附属図書館

4月22日 第35回国立大学図書館東北地区協議会総会（仙台ガーデンパレス）

訃 報

本学名誉教授望月武雄氏には、平成16年2月27日午前11時50分御逝去されました。

享年 95歳

ここに、謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈りいたします。

弘前大学学報 第614号

編集発行

弘前大学総務部総務課

036-8560 弘前市文京町1

電話(0172)36 2111